

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和3年12月10日

施設名	美術館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	-----	-----	----------------

## 1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	高知市高須353番地2		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示</li> <li>・美術に関する専門的な調査研究</li> <li>・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動</li> <li>・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供</li> <li>・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供</li> <li>・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務</li> </ul>		
施設内容	<p>&lt;建物&gt; 延べ床面積:11,723㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建                  &lt;土地&gt; 15,912㎡ 駐車場 144台                  &lt;主要施設&gt; 常設展示室、企画展示室、石元泰博展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(398席)など                  &lt;開館時間&gt; 午前9時～午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時～午後10時)                  &lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日                  &lt;主な料金&gt; 常設展 一般370円・大学生260円                  ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料                  施設利用料 県民ギャラリー22,240円(1日)、企画展示室55,630円(1日)ホール37,770～96,200円(1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 15人	契約職員: 13人	合計: 28人

※職員数は令和2年4月1日現在

## 2 収支の状況

単位:千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
収入	県支出金	280,492	319,264	324,636
	事業収入	29,006	28,501	60,699
	その他	14,174	67,975	10,030
	収入計	323,672	415,740	395,365
支出	事業費	323,672	415,740	395,365
	(うち人件費)	(113,312)	(123,470)	(119,645)
	その他	0		
	支出計	323,672	415,740	395,365
収支差額(a)-(b)		0	0	0

## 3 利用状況

	令和元年度(実績)		令和2年度(実績)		前年度比較
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	839人	常設展	4,922人	+ 4,083人
	企画展	16,026人	企画展	27,451人	+ 11,425人
	美術館ホール	3,956人	美術館ホール	5,344人	+ 1,388人
	小計	20,821人	小計	37,717人	+ 16,896人
	貸館	7,170人	貸館	22,846人	+ 15,676人
	貸館(ホール)	43,894人	貸館(ホール)	12,168人	- 31,726人
	県民ギャラリー	8,951人	県民ギャラリー	5,208人	- 3,743人
	小計	60,015人	小計	40,222人	- 19,793人
	合計	80,836人	合計	77,939人	- 2,897人
<p>&lt;利用実績&gt;                      ・コロナウイルス感染症の影響や感染拡大防止のための休館などもあり、観覧者目標を下回った(目標人数:50,000人、達成率:約75.4%(貸館分等を除く))。</p>					

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>① 展覧会にあつては企画展ごと(1回、回収305件、回収率7.8%)、ホール事業にあつては催事ごと(12催事、回収1,517件、回収率43%)に利用者満足度等のアンケートを実施した。</p> <p>② 利用者の声を恒常的に聞く据置型のアンケートを実施した(回収50件)。</p>
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p>
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

## 優れた芸術の魅力を伝えるとともに、独自のコレクションを後世に伝える

## 要求水準－収集・保存

収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う

## 評価項目

- (1) 本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

## 状況説明

- (1)本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める
  - ・山本昇雲の作品 40 点(評価額 1,630 千円)ならびに石元泰博の資料一式(2件)の寄贈を受けた。
- (2)資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う
  - ・美術作品・資料は、収蔵庫に保管し、24 時間空調による温湿度管理の下で適正に保存管理するとともに、震災時に作品がそのまま落下しないよう耐震化対策を取っている。
  - ・貸出し依頼のあった作品のコンディション・チェックを行い、状態に合わせた適切な対応を行っている。
  - ・石元泰博フォトセンターについては、プリント、フィルムをそれぞれの素材に適した温湿度設定がなされた環境下で保存。また、整理した石元泰博作品の画像を情報コーナーの端末 PC 上で公開した。
  - ・展示室は 24 時間監視カメラ及び警報システムによる警備を行い、展示室入り口には受付スタッフ及び監視員を配置し、展示作品の安全を保っている。
  - ・IPM の一環として、展示室内で虫が見つかった場合は、捕獲してその種別を確認したうえで、発生日時を記録し、害虫防除に努めた。
  - ・書庫・アート情報コーナーでは、企画展の関連書籍や収蔵作家に関する図録・書籍の特集コーナーを設け、来館者が閲覧できるようにした。また、旧ライブラリーからの蔵書の移管・台帳更新の継続や、他施設から送付された図録類の整理、破れた書籍の応急的な修復を実施した。
  - ・カビの発生が見られる収蔵作品や外部から受け入れた寄贈候補作品のガス燻蒸を館内で行い、作品の保全に努めた。
  - ・他施設から借用依頼を受けた作品のうち、裏板がない作品3点に対して、修復の専門家に委託し、裏板を新調して装着した。
  - ・他施設から借用依頼を受けた作品のうち、ブックマットにおけるヒンジの状態に不備があるものに対して、修復の専門家に委託してヒンジを新調し、作品の保管状態を安定させた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集方針に則り、本県ゆかりの作家の代表的作品を数多く収集することができる。</li> <li>・収蔵庫の保存環境保全に努め、適切な方法で収蔵資料を保管するとともに防犯セキュリティ面でも収蔵庫、展示室等の安全を保っているほか、資料整理や修復を継続して実施している。</li> <li>・整理した石元泰博氏の写真作品の画像をアート情報コーナーのパソコン端末やウェブサイトで公開したり、企画展の関連書籍、収蔵作家に関する図録・書籍の特集コーナーをアート情報コーナーに設けるなど、収集した資料に来館者等が触れ、作品への知識や理解を深めることができるよう取り組んでいることが認められる。</li> </ul>

## 要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

### 評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する
- (2) 石元泰博コレクションの調査・研究を進めるとともに、作品の情報を発信し、適切な利活用を図る

### 状況説明

(1) 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する

- ・コレクションに基づく企画展「収集保存 あつめてのこす」において、論考を複数掲載した冊子や展覧会の概要を解説する YouTube 動画、アプリによって美術館外からも聞ける音声ガイドなどの様々なコンテンツを Web 公開し、コロナ禍にありながらも充実した情報発信を行った。
- ・当館の学芸員2名が執筆に携わった企画展「西洋近代美術にみる神話の世界」の図録を刊行した。
- ・企画展「浦上コレクション 北斎漫画」では、各方面の専門家とコラボレーションし、北斎漫画の図様についてのコメントを付したパンフレットを作成し、展示会場及び Web にて公開した。
- ・当館が一大コレクションを有する石元泰博の生誕 100 年を記念した展覧会を開催し、石元泰博フォトセンター設立から研究蓄積してきた集大成とも言える図録を作成、発行した。
- ・石元泰博生誕 100 年展に合わせ、生前の関係者のインタビュー動画を展示会場及び Web で公開した。
- ・当館の学芸員が企画に関わった展覧会「高崎元尚×川鍋達 方庭 (にわ)にあそぶ」において、パンフレットの刊行も当館学芸員が主導した。
- ・「アーティスト・フォーカス#01 竹崎和征 — 雨が降って晴れた日」の記録集を刊行した。
- ・令和元年度の休館中に整理作業を行った星加コレクションについて、コレクション展「星加コレクション・映画ポスター展」を開催し、その資料の一部を一般公開した。
- ・コレクション展「マックス・クリンガー版画展」、「綴る画家たち — 土佐画人の言葉と絵画」、年複数回にわたるシャガール・コレクション展、石元泰博コレクション展などを通じて、収蔵品を幅広く、コンスタントに公開した。
- ・令和元年度に試行したアートプロジェクト「地域のアトリエ」の継続した取り組みとして、ホール担当職員が関係者とともに県内各地を巡り、高知のまちを舞台にした演劇をつくるためのリサーチを行った。

(2) 石元泰博コレクションの調査・研究を進めるとともに、作品の情報を発信し、適切な利活用を図る  
1) 「深める」活動

- ・寄贈資料(小物類、調度品など)の調査を進め、今後の整理方法の検討、包材の取り換え、目録化、コレクション展での展示公開などを行った。
- ・昨年度に構築したプリントのクラウドデータベースを更新し、作品情報管理のためのインフラ整備を行った。
- ・プロカメラマンに委託してプリント作品 3,103 枚、ポジフィルム 314 枚を複写、貴重本 1 冊を撮影し、高精細画像を作成した。
- ・保管庫で管理しているフィルム 2,045 スリーブ/シート(7,644 コマ)のデジタル化及び包材の取り換えを行い、データベース(ファイルメーカー)に追加した。
- ・企画展開催にあわせて、出版社から一般書籍として刊行した図録に、フォトセンター学芸員による論文、これまでフォトセンターが蓄積してきた調査研究を反映した年譜、文献目録等の豊富な資料を掲載した。
- ・東京藝術大学、千葉大学、国立近現代建築資料館、京都大学総合博物館からの調査を受け入れ、石元コレクションやフォトセンター施設の公開などの調査協力を行うとともに、意見交換を通じてネットワークの構築を図った。
- ・コロナ禍により、来日調査が実施できなかった海外のキュレーターや出版社からの要望に対して、ウェ

- ブ上で石元泰博コレクションに関する情報提供を行うことにより、関係構築を図った。
- ・関係作家の遺族や、石元と生前関わりの深かった方々にヒアリングを行い、関係構築を図った。
- ・全国美術館会議の資料・情報研究部会に部員として参加し、「アーカイブズ資料所蔵調査」のデータ化、集計作業に協力した。
- ・石元作品の掲載文献目録編纂のために、情報の収集と整理を進め、貴重書を中心とした雑誌や一般書籍を、購入により収集した。
- ・関係機関及び個人の関係者から、石元に関する文書やフィルム、映像資料、複写データ等の寄贈を受けた。

## 2)「広める」活動

- ・石元生誕 100 周年を記念し、東京都写真美術館、東京オペラシティアートギャラリーとの共同企画として「生誕 100 年 石元泰博写真展」を開催し、386 点の作品及び多数の関連資料を展示した。
- ・コレクション展として、「都市—〈映像の現代〉シリーズより」、「選挙」、「湖国の十一面観音」をテーマに、合計 91 点の作品及び関連資料を紹介した。
- ・著作権の利活用取扱業務として、国内外からの相談など 51 件に対応し、40 件の利用につなげた。
- ・より円滑な著作権管理のため、県とともに利用要綱見直しに向けた検討を進めた。

## 3)「つなぐ」活動

- ・高知市立一宮中学校の「校内ハローワーク」にてレクチャーを行い、フォトセンターについて紹介した。
- ・高岡第二小学校で出前授業を行い、一眼レフカメラによるポートレート撮影体験を行った。
- ・日本写真学会主催の画像保存セミナーに講師として参加し、フォトセンターについて紹介した。
- ・専用ウェブサイトの日英バイリンガルで更新し、展覧会情報の発信や、生前行われた石元へのインタビュー記事の再録公開などを行った。
- ・専用ウェブサイトがより利用しやすくなるよう、レイアウト変更などのメンテナンスを実施した。
- ・県内の酒蔵とのコラボレーションにより、フォトセンター特別ラベルの商品を制作、販売した。
- ・フォトセンターグッズとして県産の和紙を使ったメモ用紙を制作、販売した。
- ・企画展「生誕 100 年 石元泰博写真展」の開催にあわせて、有識者へのインタビュー動画の公開や、地域の関連施設でのサテライト展示、関連映画の上映会、学芸員によるレクチャー、新聞連載等を積極的に実施し、幅広い層に対して、石元芸術の魅力発信を行った。
- ・企画展「生誕 100 年 石元泰博写真展」では、土佐市教育委員会との連携体制を生かし、土佐市内の小学校 5 校(生徒・教員計 153 名)の団体来館を実施した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、Web による動画公開等の新たな手法を取り入れるなど柔軟に対応し、積極的な情報発信を実施している。</li> <li>・石元泰博フォトセンターでは、一つの節目であり大きな目標としていた「生誕 100 年 石元泰博写真展」を開催し、フォトセンター設立以来の調査研究、保存管理、教育普及活動を集大成した事業となった。また、コレクション作品の調査研究、氏の故郷である土佐市の教育委員会との連携、データベースにかかる整備、作品の借用申請等を通じた国内外の美術館等と連携や関係性の構築など、情報発信と利活用促進の活動を継続して実施できている。</li> </ul>

要求水準－展示・公開

質の高い、優れた芸術に触れる機会を提供し、芸術や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) シャガール、石元泰博の二大コレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で21万人以上の観覧者を目指す
- (2) ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める
- (3) 講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

- (1) 世界有数のシャガールコレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で21万人以上の観覧者を目指す
- 1) 収蔵作品を活用し、以下のコレクション展を開催した。
- ① シャガール・コレクション展(総出品数 205 点)  
当館のコレクションから、「手彩色の世界」を年間テーマに、『聖書』と『ラ・フォンテーヌの寓話』を5回に分けて紹介した。
  - ② 石元泰博・コレクション展(総出品数 91 点)  
当館のコレクションから、「都市」「選挙」、「湖国の十一面観音」をテーマに、3回に分けて紹介した。
  - ③ コレクション展「没後 100 年 マックス・クリンガー版画展」(総出品数 104 点)  
当館コレクションから、クリンガーの版画を紹介した。(新型コロナウイルス感染症対策による休館により、前期のみ開催。)
  - ④ コレクション展「星加コレクション・映画ポスター展」(総出品数 72 点)  
星加敏文氏が収集した映画関連資料の中から、ポスターを中心に紹介した。
  - ⑤ コレクション展「綴る画家たち」(総出品数 62 点)  
高知ゆかりの画家たちに焦点を当て、彼らの言葉とともに絵画を展示した。
- 2) 企画展として、以下の展覧会を開催した。
- ① 「収集→保存 あつめてのこす」《自主企画展》(総出品数 74 点)  
美術館がつかさどる「収集」と「保存」の2つの機能に着目してコレクションを展示し、美術館という制度の中で作品を残し、伝える営みが孕む限界と可能性を探った。
  - ② 「西洋近代美術にみる神話の世界」《巡回展》(総出品数 65 点)  
18 世紀から 20 世紀初頭までを対象とし、古代から芸術作品のなかで様々に表されてきたギリシャ・ローマ神話を主題とする作品を展示した。
  - ③ 「浦上コレクション 北斎漫画」《巡回展》(総出品数 231 点)  
『北斎漫画』の現代の絵画にも通じる魅力を、世界一の質と量を誇ると評価される『北斎漫画』コレクター・浦上満氏のコレクションより紹介した。
  - ④ 「隈研吾展」《巡回展》  
建築家・隈研吾の建築を、「孔」「粒子」「ななめ」「やわらかい」「時間」という5原則に分類し、模型や写真、モックアップによって紹介した。
  - ⑤ 「生誕 100 年 石元泰博写真展」《共同企画展》(総出品数 434 点)  
高知ゆかりの写真家・石元泰博の生誕 100 年を記念した展覧会を開催し、戦後日本において、写真界のみならず、美術、デザイン、建築にわたる芸術界全般に大きなインパクトを与えた多彩な仕事を紹介した。
  - ⑥ アーティスト・フォーカス #01 「竹崎和征」《自主企画展》(総出品数 63 点)  
ジャンルや年齢を問わず、学芸員が推薦した高知ゆかりの作家を紹介する新たな展覧会シリーズ「アーティスト・フォーカス」の初回として、須崎市出身の画家・竹崎和征を取り上げた。

(2)ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める

1)高知ライブエール・プロジェクト

日本芸能実演家団体協議会と共に、文化庁「令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業」ジャパン・ライブエール・プロジェクトに参画し、下記の15事業を実施した。

- ①「グラビティ&アザームス 現代サーカス公開オンラインワークショップ」 3回
- ②「空を駆けるサーカス」 外庭 2回
- ③「WHIST」 県民ギャラリー 54回
- ④「サエボーグ Cycle of L」パフォーマンス 7回
- ⑤「津野山神楽を舞う」 1公演
- ⑥「遠藤真理 & 吉田秀デュオコンサート」 1公演
- ⑦「Co.山田うん いきのね」公演 1公演
- ⑧「青山実験工房 高知公演」 1公演
- ⑨カンパニーデラシネラ「はだかの王様」公演 3公演
- ⑩出前クラシック教室 2校2回
- ⑪出前演劇教室公演 1校1回
- ⑫出前音楽教室・アジアの楽器「ガムランの練習曲をつくる」
- ⑬地域のアトリエ
- ⑭秋の定期上映会「フリッツ・ラング vs エルンスト・ルビッチ」
- ⑮NPO支援3事業

2)高知ライブエール・プロジェクト以外のホール事業

①定期上映会(春夏冬) 7日間計 28本上映

春は韓国映画界の怪物と称される監督の作品を、夏はウルトラシリーズの衝撃作を、冬はATG(日本アート・シアター・ギルド)の作品を中心に上映した。

②共催事業 4事業

四万十川国際音楽祭2020やシネマの食堂2020など、県内の多彩な舞台芸術を共催し、地域の芸術文化活動の発展に貢献した。

(3)講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

1)ギャラリートーク

新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

2)講演会、展覧会等関連イベント、ワークショップ等

- ・「収集 → 保存 あつめてのこす」では、配布冊子のデジタル版や、展示内容の紹介動画をオンラインで公開するなど、先進的な試みを実践した
- ・「西洋近代美術にみる神話の世界」では、関連映画の上映会や担当学芸員によるレクチャーを実施。また、高知みらい科学館プラネタリウムにおける星空解説員と学芸員によるトークなど、地域の関連施設との連携にも取り組んだ。
- ・浦上コレクション「北斎漫画」では、展覧会監修者による講演会、有識者らによる作品ガイドの配布、オンラインワークショップなど、コロナ禍における新しい教育普及のあり方を探った。
- ・「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」では、作家本人によるレクチャーを開催し、展覧会や作家に対する理解をより深める機会を提供した。
- ・「生誕100年 石元泰博写真展」では、関連映画の上映会、担当学芸員によるレクチャー、共同企画館との連携による有識者へのインタビュー動画と学芸員による解説動画のオンライン公開を実施した。また、オーテピア高知図書館、土佐市複合文化施設「つな一で」でのサテライト展示を実施し、県内の幅広い層に対して発信を行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展では、収蔵作家の一人である石元泰博の生誕 100 年を記念して、県外の2施設との共同企画による大規模な個展を開催し、作品の魅力や石元氏の人となりを広く県内外に紹介できた。また、感染症対策を講じた上で、学芸員や有識者によるイベントを実施したほか、中止になったイベント等の代替として、ウェブ上で電子版冊子や解説動画を公開した。オンラインでの発信を積極的に行うことで、来館者以外に対しても新しい形式の鑑賞機会を提供することができた。</li> <li>・文化庁のジャパン・ライブエール・プロジェクト(過去最大の 5,000 万円の補助金)を活用して、開館以降最大の多彩な公演を実施した。これにより、多くの公演が中止・延期になり仕事の間、活動の間を失った県内・国内の芸術関係者を支えるとともに、鑑賞機会を失った多くの県民に感動を与えることができた。</li> <li>・インターネットを活用し、当館初となる Zoom によるオンライン・ワークショップや YouTube によるライブ配信、アーカイブ配信などを積極的に行い、コロナ禍で鑑賞機会が減少した県民にライブ鑑賞の良さを再認識してもらい、来館につなげるよう取り組んだ。</li> </ul>

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

状況説明

(1) 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる  
新型コロナの影響を踏まえ、これまで以上に学校と協議しながら事業を実施。

- ① 出前びじゅつ講座(合計7校/353人)
- ② 出前クラシック教室 2校2回(再掲)
- ③ 出前演劇教室 1校1回(再掲)
- ④ 出前音楽教室・アジアの楽器「ガムランの練習曲をつくる」(再掲)
- ⑤ 団体利用(合計11校/358人)
- ⑥ ミュージアムバスツアー(全7校、166人)
- ⑦ ティーチャーズ・ウィーク(4回)
- ⑧ 講師派遣(コロナ禍のため要請なし)

(2) 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

1) 開館記念イベント(11月3日)

・「空を駆けるサーカス」外庭 2回(再掲)

2) お正月イベント(1月3日)

・「津野山神楽を舞う」1公演(再掲)

3) 企画展関連イベント

・「浦上コレクション 北斎漫画」:ワークショップ「和綴じ本で「マイ漫画」を作ろう！」(オンライン開催)

・「収集→保存 あつめてのこす」:映画上映会「アートのお値段」(参加者:のべ33人)

・「西洋近代美術にみる神話の世界」:映画上映会 ベルリン・オリンピック記録映画「オリンピア」(参加者:のべ42人)

・「生誕100年 石元泰博写真展」:映画上映会「ニュー・バウハウス」(参加者:95人)

・その他:高知サマープロジェクト「マテリアル・ミュージアム 高知で見つけたステキな廃材」の公開

4) 講演会・トークイベント

・「西洋近代美術にみる神話の世界」関連イベント

A.「プラネタリウムでギリシャ神話のお話」(高知みらい科学館プラネタリウム、参加者:のべ83人)

B.サタデーレクチャー①「マックス・クリンガーと神話」(美術館ホール、参加者:25人)

C.サタデーレクチャー②「描かれた神話世界－イギリスを中心に」(美術館ホール、参加者:47人)

5) 創作支援

・県民の方の芸術文化活動の発表の場として、県民ギャラリー、美術館ホール等の貸し出しを実施。

(県民ギャラリー・企画展示室:16件、美術館ホール:168件)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールプログラムでは、各学校の児童生徒のニーズに合うよう丁寧な打ち合わせを行い、学校等との連絡を密にして安全な実施に努め、子どもたちが芸術や文化に触れる機会を継続的に創出している。</li> <li>・出前音楽教室・アジアの楽器「ガムランの練習曲をつくる」は、当館が平成 20 年度より継続して取り組んでいる出前教室の発展形として生まれた音楽教育現場との協働であり、これまでの事業が成果に結びついている。</li> <li>・新型コロナの影響で感染予防の観点から屋内活動を懸念する傾向があるなか、野外イベントの開催や、YouTube よりライブ配信、ワークショップのオンライン開催など、事業を創意工夫して企画し、県内外の幅広い層に対して美術館に親しんでもらう機会を提供できている。</li> </ul>

評価項目

美術館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

1) 広報戦略

- ・展覧会やホール事業ごとにその特徴や特性を活かした広報を戦略的に行うとともに、新型コロナの状況によって変化する開催情報を積極的に発信し、継続的に情報を提供した。
- ・広報会議において、スケジュールの管理や具体的な情報を検討し、広報部会や館会議で広報の取組状況を共有し、成果や改善策を協議した。

2) 情報発信

- ・県内外のマスコミ等に開催情報を速やかに提供し、記事の掲載につなげた。
- ・FM 高知のラジオ番組に事業担当者が出演し、定期的に美術館の情報を発信した。
- ・ポスターやチラシなどの印刷物は、ターゲットを定め、事業の魅力が伝わるものとなるよう努めた。
- ・リーフレット「年間スケジュール」は、各事業のヴィジュアルを使用しながら、わかりやすく作成した。
- ・定期行物「ケンピレター」は、展覧会やホール公演の紹介に加え、作家インタビューや開催までのエピソード、終了したイベントの報告を掲載し、美術館に興味を持てる内容になるよう工夫した。
- ・シャガールと石元泰博のコレクション展を紹介するリーフレットは、様式デザインを「対」にすることで、二大コレクションのイメージを強く打ち出した。
- ・新型コロナ対策による事業の変更や混雑状況といったきめ細やかな情報発信のため、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、メールマガジン等、伝達の早い電子メディアを積極的に活用した。

3) 各事業での重点的な取り組み

- ・「収集→保存 あつめてのこす」では、新型コロナの影響で休館した期間に展覧会紹介動画を作成・公開し、休館中も内容発信に努めた。
- ・「西洋近代美術にみる神話の世界」では、オーテピア高知図書館で本の展示とポスター掲示を行った。また高知みらい科学館プラネタリウムでイベントを行い、市内中心地での告知を行った。
- ・「北斎漫画」では小学生向けの情報誌などの掲載など、夏休みに合わせた広報を行った。
- ・「隈研吾展」では、展覧会告知、イベント告知など項目ごとにCMを制作し、テレビでの告知を重点的に行った。
- ・「生誕100年 石元泰博写真展」ではSNSの広告を積極的に行った。また新しい試みとして映画館での告知を行った。
- ・ホール事業の「空を駆けるサーカス」や「津野山神楽を舞う」では、自宅や国内外どこからでも観劇可能なYouTubeライブ配信を当館で初めて取り入れ、公開後はアーカイブ配信も継続した。
- ・「グラビティ&アザームス 現代サーカス公開オンラインワークショップ」や「サエボーグ Cycle of L」、「ガムランの練習曲をつくる」では、感染予防の観点から参加者数を制限したため、当日の記録映像を編集し、後日その様子をダイジェスト映像として当館YouTubeアカウントより公開した。
- ・「サエボーグ Cycle of L」と「WHIST」の両公演にて、Peatixのオンラインチケットを導入し、新型コロナ対策の充実とともに、インターネット媒体による広報展開も拡充させた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報会議を開催し、展覧会の特徴やターゲットに適した媒体を用いた、計画的、効果的な広報活動を展開している。</li> <li>・コロナ禍においても、Facebook や Twitter など情報伝達の早いSNSを効果的に活用し、事業の変更や混雑状況などきめ細やかな情報発信を実施している。</li> <li>・YouTube によるライブ配信や事後のアーカイブ配信を行い、美術館の活動実績を広く持続的に周知していると認められる。</li> </ul>

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

1) 展覧会における連携

・「生誕 100 年 石元泰博写真展」を東京都写真美術館、東京オペラシティアートギャラリーと共に企画を行い展覧会を開催した。

2) ホール事業における連携

- ・瀬戸内サーカスファクトリーと協働し、野外イベント「空を駆けるサーカス」を創作し、開館記念日に発表した。
- ・「遠藤真理 & 吉田秀デュオコンサート」を四万十市教育委員会、四万十川国際音楽祭実行委員会と共催し、四万十市立文化センターで実施した。
- ・「ガムランの練習曲をつくる」として、春野東小学校と高知市と連携し、音楽事業の中でガムラン楽器を使った新曲の合奏練習や作詞体験し、成果発表を行った。
- ・「WHIST」を横浜赤レンガ倉庫1号館との共同招聘事業として実施し、制作・広報面で二館が緊密に連携することで、コロナ禍の中でイギリスのカンパニーの日本初演作品を上演することができた。
- ・「夏の定期上映会」では、高知県立文学館の企画展『ウルトラとくさつワールド 空想特撮大作戦 ～ウルトラマンと夢見る未来～』展の関連企画として双方の広報物に掲載し、広報連携を充実させた。
- ・文化庁のジャパン・ライブエール・プロジェクトを活用し、いの町紙の博物館、蛸蔵、四万十市立文化センターで行われた公演やコンサート等を支援した。

3) 所蔵作品の貸出

・「神話の世界展」(美術館「えき」KYOTO／群馬県立近代美術館／岡崎市美術博物館)に 17 点、「生誕 100 年 石元泰博写真展」(東京オペラシティアートギャラリー)に作品と資料計 343 点、同展(東京都写真美術館)に作品と資料計 43 点、「生誕 150 年 大下藤次郎と水絵の系譜」展(島根県立石見美術館／群馬県立館林美術館)に 3 点、「ドイツ 20 世紀 アート」展(徳島県立近代美術館)に 46 点、「電線絵画展－小林清親から山口晃まで－」展(練馬区立美術館)に 2 点の作品を貸し出した。

4) 県内外とのネットワーク

・県内では、こうちミュージアムネットワークに参加した。

・県外では、全国美術館会議、日本博物館協会、美術館連絡協議会、公立文化施設協議会、コミュニティシネマセンター、ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク、劇場・音楽堂等連絡協議会、四国美術館会議、四国博物館協議会、中四国地区公立文化施設協会に加盟し、各種の会合への参加を通じて職員の専門知識の向上を図り、日常業務へ還元する努力をしている。

5) 委員就任等

・高知県芸術祭執行委員会、高知市文化財保護審議会、高知市史編さん委員会専門部会、高知市文化振興審議会の委員を務めた。

6) 市町村やNPOに対する支援

・四万十川国際音楽祭や高知市子ども劇場、シネマの食堂、NPO蛸蔵、WASHI プロジェクトといった優れた活動を引き続き支援した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の美術館・博物館と関わりながら調査研究を行うことで、展覧会の企画内容を充実させるとともに、今後の活動に活かせるネットワークをさらに拡げることができた。</li> <li>・ホール事業では、文化庁のジャパン・ライブエール・プロジェクトを活用することで、地方単独では上演が困難な質の高い公演を行うとともに、市町村やNPOなどが行う地域の文化芸術活動に対して支援することができた。</li> <li>・他施設の企画展との連携により、双方の周知拡充と創客の相乗効果を得られた。</li> </ul>

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

1)社会的責任

- ・高知県立美術館の設置及び管理に関する条例、指定管理に関する協定等に基づき適切な施設の管理運営に努めるとともに、専門業者へ委託した業務に関しても関連法規に沿った施設管理を徹底した。
- ・個人情報については、高知県文化財団個人情報保護規程に基づき、収集、利用を適正に行い、利用目的が終了し、保管の必要のない個人情報は、随時、裁断処理又は焼却処分した。
- ・職員のパソコンには、パスワードを設定し、定期的にパスワードを変更するとともに、館外への持ち出しは原則禁止としている。また、USB等は自宅に持ち帰らないことを徹底させている。
- ・令和2年度中の美術館に関する開示請求はなかった。

2)建物や施設の管理

- ・当館の施設・設備は、建築後27年余りが経過し、全体が老朽化していることから、県で対応する大規模改修工事と連動させた改修・更新の年次計画を策定している。この年次計画をもとに、経年劣化した設備の更新を計画的に進めるとともに日常的な点検で発見した危険個所の修繕を迅速かつ効果的に行った。(修繕件数:32件、4,827千円)
- ・施設の適切な管理運営のため、専門の技術者等を擁する民間会社に空調設備保守管理などの業務を委託した。(委託件数:24件、80,631千円)

3)危機管理

- ・館職員で構成する危機管理部会を定期的に開催し、館内の危機管理対策全般について検討を行い、館会議等で周知を図った。
- ・職員通入口等で入館者の出入りを管理するとともに、搬入口の使用時には、マニュアルに沿って職員の許可を得て2重シャッター(内・外)を開閉するなど、不審者の侵入防止と外気、風雨の侵入抑制を図っている。
- ・作成済みのBCPや危機管理マニュアル、消防計画等は、適宜見直しを行うとともに、被災時のテーマを設定して災害訓練を実施した。
- ・新型コロナ対策として、国や県からの助成金を活用した検温システムやアクリル板の設置等の環境整備や、感染症対策ガイドラインに沿ったマスクの着用や手指消毒、入館時の検温などの環境づくりを実施した。また、館内の空調の状況についても調査を行い、令和3年度に空調システムの改修を行うこととなった。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員や委託先などに関係法令が徹底されており、各法令に基づいて、適正な管理運営体制がとられている。</li> <li>・新型コロナ対策においても、職員が一丸となって取り組み、施設内での感染拡大防止に努めている。</li> </ul>

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<p>1) 利用者の意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業の内容や年間の組み合わせ等は、利用者の多様な意見も勘案しながら、長期的な視点で、総合的、計画的に決定している。</li> <li>・施設や設備のハード面での意見等については、緊急性や必要性などを検討のうえ対応している。</li> <li>・日常の運営に関するソフト面での意見等については、速やかに組織内で共有し、各課職員で構成するサービス部会等で協議のうえ順次対応した。</li> </ul> <p>2) 自己点検・評価の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の満足度を把握するために企画展やホール事業ごとのアンケート調査に加え、サービス全般のニーズを常時聞く据え置き型のアンケートを実施している。(令和2年度は新型コロナ対策で一時休止)</li> <li>・これらのアンケートについては、職員全員で回覧するとともに、必要に応じてレストランや貸館の主催者にも伝達し、改善策を検討いただいている。</li> <li>・サービス部会を定期的に開催し、日々の業務やアンケート等から得られた利用者のニーズや課題への対策を検討・協議し、館会議や補佐会等に諮りながら実施に移した。</li> </ul> <p>3) 事故、クレームへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々寄せられるクレーム、要望等については、速やかに対応するとともに、完全体で情報を共有し、その状況を朝礼等で報告した。</li> </ul> <p>4) 職員の専門性の向上・研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会をとらえて積極的に職員を参加させることとしているが、令和2年度は新型コロナ対策として、会議形式での研修への参加は自粛し、オンライン形式での研修に参加した。</li> </ul> <p>5) その他サービス向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催の展覧会ごとに、受付スタッフをはじめ職員向けのギャラリートークを実施し、職員全体の展示作品や作家に対する知識の習得を図った。</li> <li>・新型コロナ対策として、「隈研吾展」では時間予約システムを導入し、適正な観客数での快適な鑑賞環境を試みた。</li> </ul>

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの要望について、可能な範囲で要望に対応する努力をしている。</li> <li>・サービス部会を開催し、サービスの向上を図るとともに、職員の専門性やスキルアップを図るため外部研修等も活用しながら積極的に取り組んでいる。</li> </ul>

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<p>1)利用実績の状況&lt;&lt;P1~2&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会観覧者数 32,373 人(常設展 4,922 人、企画展 27,451 人)</li> <li>・美術館事業の総利用者数 82,994 人</li> </ul> <p>2)利用状況の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、休館(4/10~5/10 31日)や外出自粛など、新型コロナの影響により、観覧者数も例年の半数程度となったため、目標人数(要求水準)として設定していた年間5万人は達成できなかった。</li> <li>・美術館ホールは、111件の利用が中止または延期となった。大半の時期で客席利用率50%以下の運用であった。</li> <li>・来館者数の減少は、長期化するコロナ渦の中で、年間を通してみられたが、そうした中でも高齢者の割合が増加しており、高齢者にとっては芸術文化が日常的なものとなっていると考えられる。</li> <li>・長引くコロナ渦においても安心して施設を利用してもらえるよう、感染症対策ガイドラインに沿って、マスクの着用や手指の消毒、検温の実施などを徹底して行った。</li> </ul>

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナによる臨時休館や外出自粛など不測の事態により、来館者数の減は見られたが、ガイドラインに沿った対策を徹底して行い、来館者が安心して利用できるよう努めた。</li> </ul>

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明	
<p>新型コロナの影響から、展覧会入場者の減や施設利用の中止などがあり、観覧料や使用料などの収入が予算額に達しなかったが、助成金等の外部資金の積極的な活用や支出経費の削減により、事業活動収支の均衡を図り、未実施事業分の予算などを含む残余資金は、次年度以降の事業引当金として積み立てた。</p> <p>1)収入増加の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施する事業の内容の充実を図り、ホール事業を中心に国等助成団体から外部資金の獲得を積極的に図った。((公財)日本芸能実演家団体協議会 他 計5団体 総額 57,761 千円)</li> <li>・上質な企画展やホール公演を導入するため、日頃から国内外の美術館やホールをはじめ関係団体や関係者との連携を強化するとともに見本市や展覧会の視察等による情報収集に努めた。</li> <li>・開催にあたっては、数年に亘って入念に計画・準備し、当館の意向も十分に反映した質の高いものを提供している。</li> <li>・広報部会を毎月開催し、広報全般の展開を検証し、改善するとともに、個々の展覧会やホール事業ごとに開催する広報会議などで、それぞれの特徴、特性を活かした広報を検討し、実施した。</li> <li>・展覧会を中心に、テレビや新聞の年代層に応じた活用、さらにはフェイスブックやツイッター等SNSによる情報発信にも積極的に取り組んだ。</li> <li>・広報の一環として、他の文化施設と連携した利用料の一部減免やタウン誌への招待券提供などにより、効果的な誘客につなげた。</li> </ul> <p>2)経費削減の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競争入札による燃料灯油の価格決定や電気事業者の変更、空調温度管理の徹底(省エネ)などに取り組んだ。</li> <li>・輪転機を活用したチラシ作製や、県と四国銀行等との連携協定を活用した県内外へのPRの実施など、継続的な経費縮減に取り組んでいる。</li> </ul>	

評価	理由
B	・コロナウイルス感染症の影響により、収入減となったものの、外部資金の積極的な導入など収入源の多様化、安定化を図っており、経費削減の努力も認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展や公演と連動した講演会、ワークショップなどの関連イベントの開催により、多角的、多面的な理解を促進する取り組みが行われている。</li> <li>・新型コロナ感染拡大により、従来の接触型活動や直接的な来館者は減少しているが、ライブ配信やアーカイブ配信、SNS 等を使って、新たな顧客の開拓に努めている。</li> <li>・教育普及活動では、スクールプログラムを継続して行っている。</li> <li>・ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャルメディアも活用して、効果的な情報発信が出来ている。</li> </ul> <p>上記のとおり、優れた管理運営・事業の遂行がなされたものと認められる。</p>

#### 評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。